



滋賀中央信用金庫
常務理事
総務部長

南井 伝治 氏

復興への想いと共に。

—滋賀中央信用金庫様の節電に対する考え方、及び現状の取り組み状況を教えてください。

当金庫では平成 17 年 7 月に県下の信用金庫では初めて ISO14001 の認証を取得し金庫内の省エネ・省資源活動、CSR 活動に取り組んでおり、クールビズやウォームビズは以前から導入してまいりました。

業界団体(全信協)からも節電に対する積極的な取り組みの要請もあり、前年比 6% 削減を展開しております。具体的には照明器具の、OA 機器の節電等各部署にて不要な箇所の消灯をこまめに行ったり、室温設定も夏季は 28℃、冬季は 20℃に設定するなど徹底を図っています。

東日本大震災後は業界団体、関西電力等から全体として 10% 以上の節電要請があり残業の削減、営業室内照明の間引き、PC ディスプレイの電源オフ、自動販売機の夜間電源を切る、緑のカーテンで日差しを遮断等に取り組んでまいりました。今回の CCFL 導入も併せ、積極的に取り組んでいます。



—CCFL 導入に至った経緯を教えてください。

蛍光灯の LED 化は ISO の取り組みから以前より検討しており、すでに数社から説明に来ておられました。

震災後、営業室内の節電対策が本格化し他社からも提案を受けており、照度、消費電力、電力料金等を検討し投資回収期間には約 10 年かかるとの事でした。そんな矢先、当金庫の取引先でもある(株) KPlanning (ケイ・プランニング)様から CCFL の提案を頂きました。5~6 年で回収が見込め、長寿命という製品の特徴、照度も落ちないとの製品であり、すぐに協議し了解を得られ、導入が出来ました。

また、震災復興の為、福島県で生産されているということで、導入に際しては私どもの理事長も福島の工場まで行かせていただき、復興への思いに触れ、私どもにも出来る復興支援の一環として、日本ガラストロンクス社の CCFL を採用しました。



—CCFL 導入後の状況はいかがですか。

2012 年 1 月に CCFL への交換を実施した際に節電効果を計測したところ、従来の照明に比べ、約 40% の削減量が得られる結果でした。今後の節電効果にはたいへん期待しております。また去年は、間引き消灯するなど従来の営業室内に比べて照度が落ちた状況となりましたが、来店されるお客様の節電に対するご理解のもと運営することができました。

今年はこのような環境を改善しなければならないと考えておりましたので、CCFL は明るさの面でも効果的な提案であり今後も他支店にも拡充して参りたいと思っております。

